

親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。

小学校に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かした事がある。なぜそんな無闇をしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談に、いくら威張っても、そこから飛び降りる事は出来まい。弱虫やーい。と囃したからである。

小使に食ふさつて帰つて来た時、おやじが大きな眼をして二階くらいから飛び降りて腰を抜かす奴があるかと云ったから、この次は抜かさずに飛んで見せますと答えた。

親類のものから西洋製のナイフを貰つて奇麗な刃を日に磨いて、友達に見せていたら、一人が光る事は光るが切れそうもないと云つた。切れぬ事があるか、何でも切つてみせると受け合つた。

そんなら君の指を切つてみると注文したから、何だ指ぐらいの通りだと右の手の親指の甲をはすに切り込んだ。幸いナイフが小さい

のと、親指の骨が堅かつたので、今だに親指は手に付いている。しかし創痕は死ぬまで消えぬ。